

英語
フェスティバル

第5回西原町小中学校英語フェスティバル(西原町教育委員会主催)が、11月24日にさわふじ未来ホールで開催されました。この催しは、英語による合唱や演劇、スピーチの体験をおとして、英語への興味やコミュニケーション能力を高めることを目的としています。



合唱では身振り手振りを交えながら大きな声で歌い、演劇ではコミカルな演技で動き回り会場の笑いを誘っていました。また、スピーチでは地球温暖化などについて堂々と発表をしていました。

いちばん星みつけた
県教育長から表彰



西原東中学校で毎月第1水曜日に各クラスで読み聞かせを行うサークル「いちばん星みつけた」が、読書活動の推進に尽力していることが認められ、沖縄県教育長から表彰されました。同団体は、町内の小学校で実施されていた読み聞かせを中学校でも続け、生徒の成長に貢献したいという思いをきっかけに設立されました。保護者や地域住民、元教員など約20名で構成されており、活動期間は15年になります。

森永商品で
演劇デビュー

沖縄森永乳業(株)(以下、森永)が看板商品である森永ヨーゴのパック18万本分に、NS2BPが主体となる創作演劇「さわふじと運玉義留」の広告を掲載することが発表されました。西原町と森永は昨年の6月15日に町事業への協力に関する包括連携協定を締結しており、本企画はその一環として行われました。

ジュギャルによる教育講演会

ジュギャルの愛称で有名な小林さやかさんを講師に招いた家庭教育講演会が12月6日に、さわふじ未来ホールで行われました。学年ビリの成績から勉強強をして現役で慶応大学に合格したことが映画化されたこともあり、話を聞こうと会場にたくさんの方が詰めかけました。



小林さんは、不可能を可能に変えるポイントとして、①ワクワクする目標をつくる、②根拠のない自信を持つ、③具体的な計画を立てよう、④目標や夢を公言しよう、⑤惜しみをプラスの力に変えるべし、の5つを挙げていました。その具体例として「慶応大学に進学するという目標を立て、私なら合格できると信じました。家族にその目標を伝えたら、父からは塾に行っても絶対に合格できないからお金の無駄だと言われ、母からは必ず合格できると言われました。父を見返したいと思い母への感謝をやる気になって勉強した結果、見事合格でき、合格できないと断言していた父が合格時には泣いて喜んでいましたと嬉しそうに述べました。

さわふじと運玉義留

【日時】11月21日(日)
①13:30開演
②16:30開演
【場所】さわふじ未来ホール
【入場料】1,000円
お問い合わせ・チケット購入は、産業観光課(945-4540)へ



まちづくり活動へ
補助金交付

西原町まちづくり推進協議会(福里重盛会長)は、協議会の活動の趣旨に準じ、まちづくりに資する事業を実施する4団体への補助金の交付を決定し、12月5日に西原町役場で通知を行いました。補助金の資金は町内外企業からの協賛金で賄われています。



【交付団体・事業名】①西原町母子寡婦福祉会・小学校一年生を祝う事業、②西原防犯パトロール会・西原町あんしん防犯パトロール事業、③千原自治会 高齢者にやさしい安らぎのある豊かなまちづくり事業、④西原ミュージックフェスティバル実行委員会ニシハラミュージックフェスティバル

戦没者追悼式



日露戦争から第二次世界大戦にかけて犠牲になった御霊の冥福と恒久平和を願う「西原町戦没者追悼式」が、11月17日に西原の塔でありました。

式では町内外からご遺族や町民など関係者が参列し、戦没者に祈りを捧げ、平和を誓いました。また幸地婦人会による千羽鶴の奉納や西原中学校の生徒による平和メッセージの朗読が行われました。朗読では「友と笑いあい、家族と食事し、学校で授業を受けられる今に感謝するとともに、平和への思いを伝えました。」

文化財
小橋川邑廻い



西原町では、平成二十三年度から毎年十二月に町内の一つの「字」に焦点を当てて、その地域に残されている文化財や歴史、文化、伝統について紹介・案内する地域散策イベント「邑廻い」を開催しています。邑廻いの案内役は、町内を中心に活動している「ニシハラ歴史の会」が務めています。

さて、昨年の十二月九日に字小橋川の邑廻いを開催しましたが、みなさまは小橋川地区が沖繩の歴史において二名の重要な人物と関わりがあることはご存じでしょうか。

一人目は、小橋川出身の大城助素氏です。大城氏は一九一四(大正三)年に、当時の甘蔗(※)圧搾機の性能を大幅に上回る画期的な圧搾機を開発し、沖繩の製糖産業を大きく発展させた人物です。

二人目は、「黒船来航」で有名なペリーです。ペリーは一八五三(嘉永六)年に琉球国を訪れており、島内を調査する探検隊を派遣していました。その探検隊が小橋川の集落で野営をしていたことが、歴史資料



や木版画で知ることができます。

小橋川邑廻いでは、地域で大切に利用されている拝所や井戸、御嶽(うつくさ)戦争の悲惨さを伝える慰霊碑、近年まで石畳道があった坂道、綱引きが行われる場所などを巡りながら、大城助素氏やペリーの話を聞くことができます。

このように、ガイドの説明を受けながら地域を歩いてみると、貴重な文化財や歴史、文化、伝統にあらためて気づかされることが多くあります。次回の邑廻いの開催地は未定ですが、この機会を利用して地域に残されている歴史文化遺産に触れてみませんか。みなさまの参加をお待ちしています。

※さとうきび

お問い合わせ 教育部 生涯学習課 文化財係 ☎944・499八